

## パネル 2012年度せんだいメディアテークでの企画

著者	東北学院大学文化財レスキュー 班
URL	<a href="http://id.nii.ac.jp/1204/00000324/">http://id.nii.ac.jp/1204/00000324/</a>

# 文化財レスキュー展 in 鮎川 開催

## ● 開催の目的

2012年8月12日（日）から14日（火）の3日間、石巻市牡鹿公民館で「文化財レスキュー展 in 鮎川」を開催しました。この展覧会では、震災によって鮎川で被災した資料500件の中から約40件を展示しました。展示した資料は、東北学院大学を中心とした多くの学生たちの手によって、洗浄作業が行われたものです。

展覧会の開催にあたって、資料の洗浄作業の継続はもちろんのこと、資料に関するデータの収集とデータベースの作成についての準備も進めてきました。また、自分たちの活動を構想していくために、阪神淡路大震災後の地域のような、アメリカのハリケーン被害後の研究者の取り組みを題材とした論文を読みました。文化財レスキュー活動を通して何ができるのか、まだはっきりとした答えはわかりません。しかし、活動を続けながら見えてくるものを、大切に記録してくのが、いまできることだと考えています。



データベース作成の準備



学生が製作したチラシ

「文化財レスキュー展 in 鮎川」の目的のひとつは、資料を現地で展示することで、資料に関する情報を集めることでした。被災した資料の大部分は破損が激しく、用途が分からないものが数多く存在するからです。そこで、洗浄作業が終了した資料を、収集された現地に展示し、以前それを使用していた住民から、資料に関する情報を提供していただく場として、展覧会を開催しました。

## ● 3日間行われた展覧会

文化財レスキュー展を開催する前日には、大学から展示する資料を積み込こんで、鮎川へと向かいました。会場到着後、まずは会場の掃除を始めました。電気が通っていないなか、メンバーで協力しながら掃除をすすめました。会場をきれいにした後、大学から運んできた資料の梱包を解き、展示企画係（資料の配置を決める係）の指示に従い、展示作業をすすめました。この日のミーティングでは、研究者から阪神淡路大震災と人の記憶についての講話を聞いたり、展示する資料についての情報をみんなで共有したりして、翌日から始まる文化財レスキュー展に備えました。



会場の石巻市牡鹿公民館



梱包作業の様子

展覧会は3日間開催され、約150名が来場しました。学生たちは、来場者にインタビューを行って、展示した資料に関する情報を集めるための聞き書きを行いました。展覧会2日目には、学生が主催した〇×クイズ大会のほか、企業ボランティアとの協働で映画上映会と紙粘土細工のワークショップを開催したので、子どもたちが多く訪れ、前日に比べてにぎやかな様子でした。展覧会3日目は、午前中のみ聞き書きをおこない、午後は片づけと資料の積み込みをしました。展示品の梱包作業は主に二人一組で協力しておこないました。梱包には、紙ひも、綿布団、エアクッションを使います。梱包作業は開催準備に続いて2回目だったので、みんなスムーズにすすめることができました。梱包が終わったら資料をトラックに積み込み、鮎川を後にしました。